

山月記 李徵の漢詩を読み解く 第3段落)

李徵は自分の思いを即席の漢詩に詠んだ。この漢詩が李徵の境遇、思いを端的に表している。（端的に表しているということは「象徴」に繋がる。）その漢詩を読み解くことで李徵の胸の内を探ろう。

① 偶狂疾に因つて殊類と成る

狂気に冒され

② 災患相仍つて逃がるべからず

私の爪や牙にいったい誰が敵うだろう（誰も敵わない）

③ 今日は爪牙誰か敢へて敵せんや

④ 当時は声跡共に相高かりき

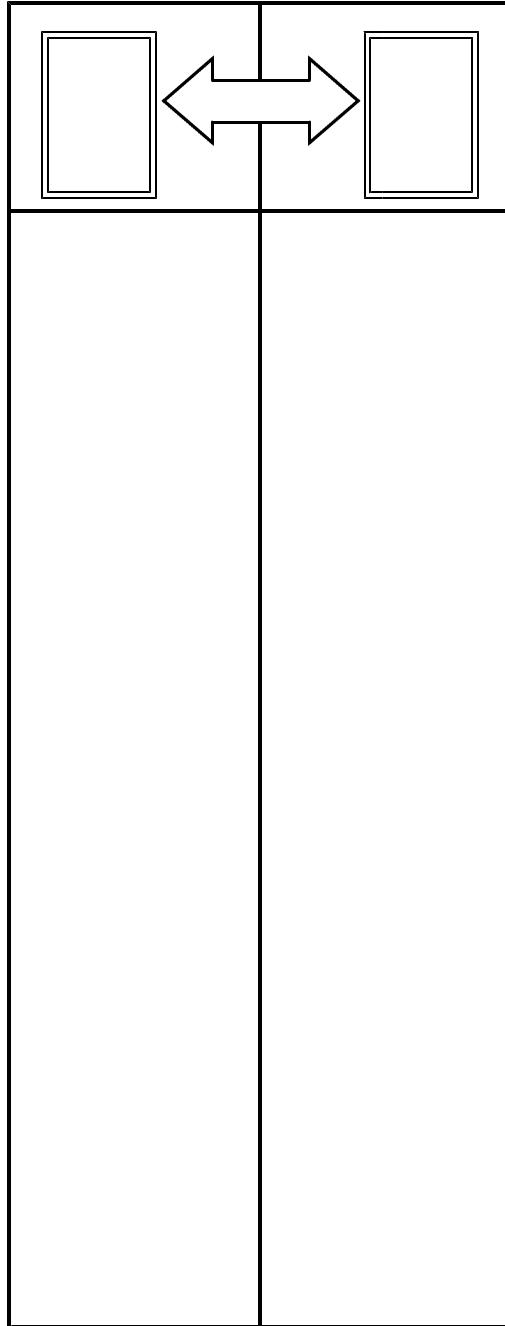
異類・人間と違うもの

⑤ 我は異物と為りて蓬茅の下にあれども

⑥ 君は已に軒に乗りて氣勢豪なり
此の夕溪山明月に対し
長嘯を成さずして但嘯を成すのみ

⑦ ⑧

問一、この詩の形式は（ ）と云ふ。押韻は（ ）。
問二、（ ）といふことは、対句は少なくとも（ ）聯と（ ）聯にある。
問三、対を見つけて印を付ける。（必ずしも対句だけにあるとは限らない。）
問四、それらのを2つのグループに分け、そのグループはそれぞれ何のことと言っているのか
当てはめる。（何の象徴だろう？）



問五、李徵は自分のことをどのように見てているか。